

3 中流域

(1) 自然環境の概要

中流域の那珂川は、八溝山塊^{やみぞさんかい}、鷲子山塊^{とりこの}、鶏足山塊^{けいそく}からなる八溝山地の西麓を流れ、下野大橋（那須烏山市）付近から山地に挟まれた狭窄部^{きょうさうぶ}を流下し、御前山付近から下流の台地・丘陵の間を流れていく。

八溝山塊、鷲子山塊の西側を南へ流下する区域（箒川合流点～下野大橋）では、河岸段丘が発達し、その間に幅2～3kmの谷底平野が開け、水田の多い地域となっている。さらに下流の八溝山地を横断する区域（下野大橋～御前山）では、両側が崖地となり、崖地特有の植生が見られる。八溝山地西麓には部分的に暖温帯に見られる照葉樹林が分布し、河川に面した崖地でも照葉樹林が一部見られる。さらに下って、茨城県内に入ると川幅が拡大して再び数段の段丘地形が見られる。



那珂川の河岸段丘

那珂川の中流域では、那珂川が台地を削ってできた数段の河岸段丘が見られる。段丘の斜面は、急崖となり土地利用に適しないため、斜面林が帯状に伸びており、航空写真でも確認しやすい。

八溝山地西麓を流れる那珂川（河口から63.5km、那須烏山市、平成15年11月）



八溝山地を横断する那珂川（河口から55.0km、茂木町、平成15年11月）

図4-27 那珂川中流域の様子

丘陵地が迫った区間では、河幅の狭い区域に砂礫河原、オギ原などの環境と、切り立った斜面に竹林や広葉樹林があり、多様な環境が存在している。

河原の植生はオギ群落が多く、次にツルヨシ群落が目立つ。段丘の斜面にはマダケ林やスギ・ヒノキの植林、クヌギ林、シラカシ林などが見られる。

砂河原には河原植物が生育し、河原環境に依存する昆虫類や鳥類が見られる。また、丘陵地を流れていることから、溪流や樹林に生息する鳥類や昆虫も見られる。

豊かな那珂川の流れは、良好な水質を維持し、砂州の入れ替わりによって瀬が良好な状態に維持されており、流水にすむ淡水魚や水生昆虫が生息する。春から夏にかけてはアユが遡上する。

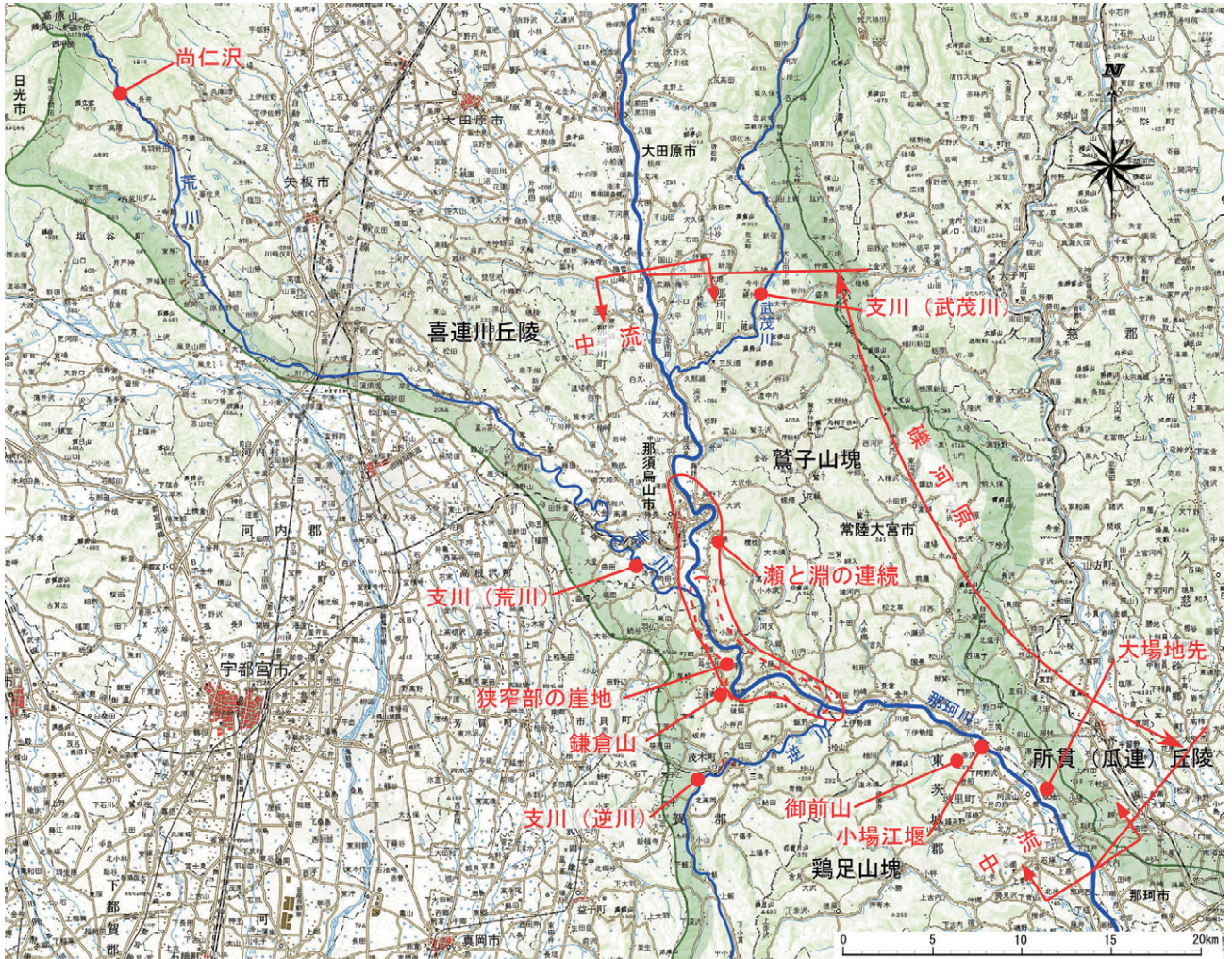


中流域に特徴的な斜面林と砂礫河原（茂木町 4月）



中流域に多いツルヨシ群落

図 4-28 那珂川中流域の斜面林と河原の植生



※図中の赤字の場所は本文中で取り上げた環境

図 4-29 那珂川中流域の自然環境位置図